

感謝の言葉

御坊市日高川町中学校組合立大成中学校 3年 西 田 夢 真

皆さんは、お父さんやお母さんに感謝の言葉を伝えることができますか。いざ改まって伝えるとなると、私は恥ずかしくてできていません。でも、家族という存在は私の中で常に大きく、自分の心を温かくしてくれるものだと日々感じています。

私は今、父と2人暮らしをしています。2人で暮らし始めたのは小学校3年生の頃からで、それまではお母さん、お父さん、私、妹の4人で暮らしていました。ある日母に、「私たちが離ればなれになったらどちらについてくる？」と聞かれました。妹がお母さんと暮らすと聞いたので私は、「お父さんと一緒に暮らす。」と言いました。その時私は“妹がお母さんについていくとお父さんがひとりぼっちになってしまう”という気持ちから父と暮らすという言葉が自然と出てきました。父はこれから1人で娘を育てていくことになる。私の決断は、家族にとってすごく大きなことだったのだと自分が成長するにつれ、感じるようになりました。

父と暮らしながらも祖母や従兄弟たちにお世話になることもありました。父の仕事が長引くときには、目の前にある祖母の家で寝ることもあり、2人暮らしに寂しさを感じることはありませんでした。そして中学に入りたての頃に、私には新しいお母さんができました。さらに犬も飼うことになり、我が家のにぎやかさが何倍にもなりました。家に帰ると迎えてくれる人がいることの嬉しさ、美味しいご飯が作られている喜び、休日一緒に出かける時の充実感。毎日が楽しく、心が躍っていました。バレーをしているときにも毎日車で送ってくれたり、どんなに遠い所の大会でも応援に駆けつけてくれたり、自分のためにここまで一生懸命になってくれる人に囲まれていることが幸せで感謝の気持ち

でいっぱいでした。でもその時も私は恥ずかしくて“ありがとう”が言えませんでした。

そんな中、私は再び父と2人暮らしをするようになりました。私は、もう以前のように楽しく過ごすことはできないと思っていました。でも、父はそんな自分とは裏腹に、いつでも私のことを全力で受け止めてくれました。わがままなことたくさん聞いてくれたり、色んなところへ連れて行ってくれたり、テストで思うような点数が取れなかった時も、「次がんばれよ」と励ましてくれたりします。もちろん悪いことをした時は本気で怒ってくれます。怖い所もあるけれど根は優しい不器用な父。こんなに最高の人は他にいないと思います。でもそんなこと思春期の私が父に言えるはずがありません。

しかし、少し前に父が病気になりました。私の前では笑顔で何事もないかのように明るく振舞っている父ですが、みるみる痩せていく父に私は何と声をかければいいのか分からなくなりました。

その時に私は、当たり前ことは、実は当たり前ではないということ、想いは伝えたいときに言葉にしないと伝わらないということを感じました。それは親だけでなく友だちや先生、自分を支えてくれる人たちも同じです。“ありがとう”この5文字に込められた思いは言う人も言われる人も笑顔に、幸せな気持ちにしてくれます。こんな魔法の言葉、他にはありません。

私の周りには私を大事にしてくれる人がたくさんいます。そんな素敵な人たちをこれからも大切にしていきたい。そして、いつでもどんな時でもそばにいてくれた父。なかなか素直になれない私だけれど、1番に感謝を伝えたいです。この場を借りて言わせてください。

「お父さんいつもありがとう。」